

# もくじ

## 第1編 現代に生きるわたしたちの課題

### 課題① 地球環境問題

<b>わたしたちの課題① 地球環境問題</b>	
いま、地球がたいへんだ	4
自然環境の保全	14

### 課題② 資源・エネルギー問題

文明のみなもと	15
石油に代わるエネルギー	16
<b>わたしたちの課題② 原子力発電問題</b>	
原発に未来は?	17
<b>対論① 原子力発電の是非</b>	
推進か脱原発か	22
レアメタル	24

### 課題③ 科学技術の発達と生命の問題

<b>わたしたちの課題③ 生命倫理を考える</b>	
生命の倫理	25

### 課題④ 日常生活と芸術や宗教とのかかわり

<b>わたしたちの課題④ 人生と芸術</b>	
芸術の喜び	32
<b>わたしたちの課題⑤ 人生と宗教</b>	
信仰の姿と形	38
世界の宗教	44

### 課題⑤ 豊かな生活と福祉社会

<b>わたしたちの課題⑥ 豊かさとは何か</b>	
安心して暮らせる社会を	45
日本の社会保障制度	49
所得の保障	50
医療の保障	51
介護保険	52
障害者福祉	53

## 第2編 現代の社会生活と青年

### 第1章 現代社会の特質

大衆社会	54
少子高齢社会	55
情報社会	56
国際化の時代	57

### 第2章 青年期の課題

青年期ってなんだ	58
青年の能力とは何か	59
青年期の孤独	60
若者文化のいま	61
青年と社会	62
適応のかたち	63
危機としての青年期	64
大人になるとは	65
自分を見つける	66
「生きがい」とは	67

## 第3編 現代の経済社会と 経済活動のあり方

### 第1章 現代経済のしくみ

市場機構と価格	68
GDPとは何か	69
景気変動	70
デフレーション(デフレ)	71
財政の役割	72
租税と税制改革	73
公債と財政危機	74
金融のしくみ	75
金融政策	76

### 第2章 経済の発展と国民生活

戦後復興	77
高度経済成長	78
石油ショックから安定成長へ	79
バブル経済と平成不況	80
労働者の権利	81
雇用の新しい動き	82
日本の賃金制度	84
育児休業	85
中小企業と日本経済	86
農業・食料問題	87
公害問題	88
悪質商法	89
消費者保護と消費者行政	90

## 第4編 現代の民主政治と民主社会の倫理

### 第1章 日本国憲法の基本原理

国民主権と権力分立	91
人権思想の発展	92
日本国憲法の制定	93
憲法改正問題	94
人身の自由	95
<b>対論② 死刑制度を考える</b>	
死刑は廃止すべきか	96
思想・良心の自由	98
信教の自由	99
表現の自由	100
平等権——男女差別	101
<b>対論③ 家族の関係を考える</b>	
夫婦別姓を導入すべきか	102
平等権——部落差別	104
平等権——民族差別	105
社会権	106
環境権	107
プライバシーの権利	108
知る権利と情報公開	109
子どもの権利	110
外国人の参政権	111
外国人の公務就労権	112
国家賠償請求権	113
平和主義と憲法第9条	114
第9条と自衛隊	115
<b>ワイドテーマ① 日本の安全保障</b>	
自衛隊と日米安保	116

### 第2章 政治のしくみと現代政治

議院内閣制と大統領制	122
国会（立法権）	123
国会の問題点	124
内閣（行政権）	125
行政の問題点	126
日本の裁判制度①	127
日本の裁判制度②	128
裁判員制度	129
地方自治のしくみ	130
地方自治の現状	131
地方分権	132
日本の政党の現状	133
政党と政治資金	134
日本の選挙制度——衆議院選挙	135
日本の選挙制度——参議院選挙	136
日本の選挙の問題点	137
世論形成とマスコミ	138
マスコミの問題点	139

## 第5編 国際社会の動向と日本

### 第1章 現代の国際政治

国家と国際社会	140
国連と国際政治	141
国連の活動	142
国連の課題と国連改革	143
国連の平和維持活動	144
民族問題と地域紛争①	145
民族問題と地域紛争②	146
難民問題	147
核問題	148
<b>ワイドテーマ② パレスチナ問題</b>	
パレスチナ問題を知っていますか?	150
戦後日本外交史	155
<b>ワイドテーマ③ 日本の領土問題</b>	
日本の国境地図	156
戦後国際政治史①	161
戦後国際政治史②	162
戦後国際政治史③	163
戦後国際政治史④	164

### 第2章 現代の国際経済

世界の貿易	165
国際収支	166
円高・円安	167
国際通貨体制	168
貿易摩擦	169
社会主義経済の変容	170
地域経済統合	171
欧州連合（EU）	172
南北問題	173
日本の経済援助	174

## 付録／法令集

日本国憲法	175～184
大日本帝国憲法，世界人権宣言，国際人権規約	185
女子差別撤廃条約，ポツダム宣言	
自衛隊法，日米安全保障条約	186
地方自治法，教育基本法	187
労働基準法	188
労働組合法	189
労働関係調整法，環境基本法	190
国際連合憲章，日本国との平和条約	191

さくいん	192
------	-----

# ①「ケータイ小説」が流行るわけ

## ——若者の孤独を癒す共通メッセージ

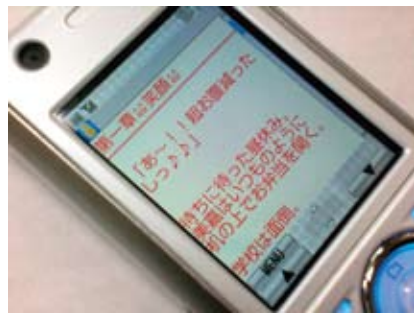
「ケータイ小説」と呼ばれるゆえんは、携帯電話で執筆され、携帯電話で購読されているものだからだ。

読者が読むのは通学の車内や授業の合間、家で退屈している暇な時である。小さな携帯電話のディスプレイに文章が納まり、その場ですぐ内容が頭に入る必要がある。一目で理解できる短く単純な文体は、ディスプレイのサイズから要請されたものでもある。ケータイ小説を読むのはほとんどが中高生であり、さらに大多数が女子生徒である。

ケータイ小説の作家はほとんどが匿名である。その理由は、親にも恋人にも打ち明けられない種類の実体験が、小説の素材になっていることが多いからだ。大ヒットとなった『恋空』の作者もプロフィールを公開していないし、取材にも応じていない。莫大な印税も、内緒の収入なのである。まして、これを足がかりにプロの作家として名乗りを挙げようとも思っていない。文学的な、あるいはジャーナリスティックな意味での「作家」になろうという意志が、もともと彼らには存在しないのだ。



▲ケータイ小説の代表作『恋空』は上下2巻の長編だが、100万部を超えるベストセラーになった。



では、そんな彼らはなぜ小説を書くのか。社会から切り離され自意識と主体性が薄弱な彼らは、物語の鑄型に嵌めこむことで仮の「自分」を創造している。周囲にもいえなかった自分の体験をストーリーにすることで、孤独のストレスが癒され、同時に読者から共感のメッセージを貰うことで癒される。二重の癒しがある。

そして読者も、作品に感情移入をすることによって自分の中の似た感情が劇化され、カタルシスを得る。あるいは、ちょっと危険な他人の体験を覗き見て、好奇心が満たされる。さらに口コミで話題を共有することによって、多くの仲間と共通感覚でつながっているという安心感を得る。

彼らが一番恐れるのは、裸の自己が孤独にさらされることである。ふつう文学はその種の孤独と直面するところから出発するのだが、逆にケータイ小説は孤独を物語の鑄型で包んで共有することで、孤独を忘れさせてくれるのである。そこには〈文学〉のような公の価値観や目標が存在しない。ケータイ小説に参加することで得られる満足感ほどこまでもパーソナルなものであり、手帳に友人のプリクラが増えていく満足感と似ている。（『日本の論点』2008、清水良典氏の文章）

## ②若者コトバあれこれ

**流行りすたり** かつて流行り、その後すたれて、まるで墓場に眠っていたような言葉が、なぜか復活することがある。「ドンマイ」もその一例で、ある年齢層には、これが若者言葉なのかと言われそうだが、中高生たちは、「たいしたことないさ。今度がんばれよ」等という意味で、よく使っている。また、「モトサヤ」も、元の轡しなやに収まるという意味で、由来はわからないまでも、多くの若者が使っている。

**若者なりの敬語表現** 若者言葉にもそれなりの敬語の意識が働いているようである。正確に言えば、若者言葉にも敬語的な表現があり、その気持ちを伝えようとしている。とはいえ、それが、大人社会の「文法」と必ずしも一致するわけではなく、誤解が生じることもあるようだ。

例えば、「…っす」がそうである。「はくは静岡出身っす」は、「です」という語尾よりも若者たちの間ではよく使われ、使っている若者本



人はかなり敬語的なニュアンスで使っている。この疑問形は、「…っすか?」で、「先輩は宮崎出身っすか?」となる。また先輩などを敬わず、会ってもあいさつをしない若者より、若者なりの敬意を込めて、「チョリ〜ッス」と元気にあいさつする若者の方が好感が持てるかもしれない。（『現代用語の基礎知識』2009、山西治男氏の文章）

**解説** 若者を中心に流行っている「ケータイ小説」は、あくまで個人的な体験と感情を書き、それをまた個人的な感情や情緒だけで理解する読者と匿名のまま連帯できれば良しとしており、これまでの「小説」が持っていた社会や文化といった公の価値観の体系から評価され

ようとは書かれていないと筆者は述べる(①)。若者だけが使用する若者言葉と同様に、共通の約束事のもと仲間とつながっている安心感を得ることが大事であるという(②)。

## 若者文化

かつて社会に対する若者の不満や怒りは、長髪やジーンズ、ロックといった形で、彼らの反抗や主張を社会に発する若者文化を生み出した。しかし、バブル崩壊後の長引く不況下で、若者文化も時代と社会の影響下に未来の開けない閉塞感につつまれている。

# ①うずまくデフレスパイラル

## ——デフレに直面する日本経済

**日**本政府の定義によれば、デフレとは「持続的な物価の下落」ということになりま  
す。つまり、モノの値段がずっと下がりが続  
けている状態だ、ということです。

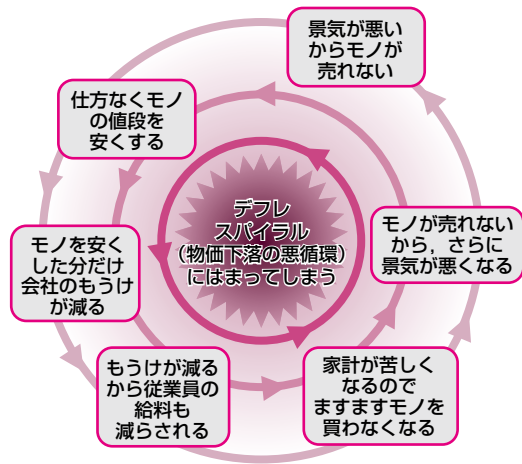
確かに、私たちの身のまわりの商品の値  
段は、このところどんどん安くなっています。  
戦後の日本の、物価の値上がりに悩まされて  
きただけに、物価の下落は、当初みんなに  
歓迎されました。しかし、過ぎたるは及ばざ  
るがごとし。行き過ぎは困るのです。

商品の値段がなんでも下がっていくと、商  
品のメーカーや商店としては、自分のところ  
でも安くしないと商品が売れない、ということ  
になります。たとえ値段を安くして売っても、儲

けはありません。値段を下げて  
もやっつけられるようにするには、経  
費を切り詰めなくてはなりません。商品のメーカーは、取引先  
の部品メーカーに、「値段を下げ  
ろ」と交渉し、仕入価格を下げさ  
せます。社員の給料を下げたり、  
ボーナスを減らしたり、という対策  
をとります。

部品メーカーも、納入価格を  
引き下げられたら、社員の給料  
を下げる羽目になります。こうし  
て、いろんな会社の給料が下  
がっていきます。

**み**んなの給料が下がれば、新たに商品を  
買う意欲が低下します。物価がどんど  
ん下がっているのだから、「もっと値段が下  
がってから買い物しよう」という人も増えます。  
商品がますます売れなくなります。こんな悪  
循環が続いているのです。



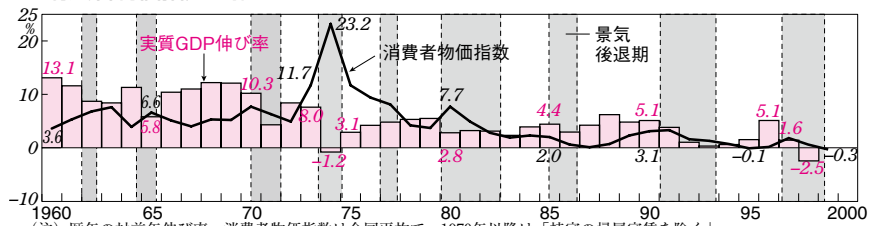
この様子を「デフレ・スパイラル」と呼び  
ます。「スパイラル」とは、螺旋階段のこと。  
下に向かって降りていく螺旋階段を考えてくだ  
さい。デフレの経済では、みんなが螺旋階  
段を下に向かって降りていく、いや、落ちて  
いくのです。

(池上彰『経済ニュース虎の巻』講談社)



▲1,000円以下のジーンズも登場した

### ●消費者物価指数の推移



(注) 暦年の対前年伸び率。消費者物価指数は全国平均で、1970年以降は「持家の帰属家賃を除く」。

(『国民経済計算年報』『消費者物価指数年報』ほかより作成)

## ②借金は実質的に増加する

**デ**フレになると、借金は、実質的に増えることになるねん。右図の  
住宅ローンで説明しよ。バブルのころに3,500万円のマンション  
を、頭金500万円払って3,000万円の住宅ローンを組んで買って、  
毎月、手取り30万円の給料の中から10万円返済してるとしよ。デフ  
レになって賃金カットで給料が25万円に減った時、物価が下がり  
て食費など生活費は10万円に減っても、ローン返済は10万円のま  
まから、自由に使えるのは5万円しか残らへん。これが失業して雇  
用保険の17万円になったら、生活費を8万円に切り詰めても、残り  
の9万円ではローンが払えんようになるねん。もっと深刻なこともあ  
る。ローンが2,000万円残ってるのに、マンションの時価が1,500万円に  
落ちたら、マンションを売っても借金が500万円残る。

企業も理屈は同じ。大抵は借金して工場や店をつくったり商品  
を仕入れたらしてるから、デフレで売り上げが減って、借金は前のま  
まから、返済に苦勞すねん。バブル期に店舗をつくりすぎていっ  
ぱい借金作って倒産した百貨店「そごう」がいい例や。

(『毎日新聞(大阪)』2001.3.16)

### ●デフレで厳しくなるローン返済

手取り 30万円			
月々のローン返済 10万円	生活費 12万円	娯楽、趣味 など6万円	貯金 2万円
手取り 25万円			
月々のローン返済 10万円	生活費 10万円	娯楽、趣味 など5万円	賃金 カット
月々のローン返済 に足りない9万円	生活費 8万円	失業	
雇用保険 17万円			

### 解説

物価下落は消費者にとっては欲しいものが安く手に入り、望  
ましいことだが、物価下落が長く続くデフレは確実に景気  
を悪化させることになるから、喜んでばかりもいられない。2001年3月、  
内閣府は現在の日本経済は「緩やかなデフレにある」と、戦後初めてデフ  
レ状態にあることを公式に認定したが、いつになったら景気は回復する  
のだろうか(①、②)。

**デフレ** デフレは、モノが余り物価全体が継続的に下がり、お金の価値が上がることをいう。経済全体は縮小して、景気は後退する。インフレ  
は逆に、物価全体が継続的に上昇して、お金の価値が下がることをいう。



▲ヨルダン川西岸の町ベツレヘムにある難民キャンプ(2007年) イスラエルがつくった分離壁(p.154 参照)によって人々の生活は分断されている(古居みずえ)

## パレスチナ問題ってなんだ？

「パレスチナ」は世界地図に載っていません。19世紀の終わりにヨーロッパでおこった“ユダヤ人の独立国家をパレスチナに築く”ことを目指したシオニズム運動によって、パレスチナの土地にイスラエルが建国されたからです。このため、昔からそこに住んでいたパレスチナ人の多くは土地を追われ、その後もつぎつぎと起こる戦争や弾圧で多くの命を奪われてきました。すでに60年間にわたる難民生活を強いられている人もいます。はたして、パレスチナ問題の何が問題なのか考えてみましょう。

### Q パレスチナ問題ってなに？

**A** 1948年にユダヤ人の国であるイスラエルがパレスチナに建国された結果、そこに住んでいた100万人近くのアラブ人が追放されて難民となった。彼らはまもなく自分たちのことをパレスチナ人と呼ぶようになる。現在パレスチナ難民はヨルダン川西岸やガザ地区あるいはシリアやヨルダンなどの周辺国に約380万人いる。彼らはパレスチナに自分たちの国をつくることを求めてきたが、その願いは今も実現していない。

### Q イスラエルはなぜパレスチナに作られたの？

**A** ヨーロッパのユダヤ人がイスラエルを建国した。第

二次大戦中のナチスによるユダヤ人虐殺に同情する国際世論を背景に、アメリカなどの強い支持でつくられた。イスラエルは二千年前にこのパレスチナの地に自分達の国があったことを主張の根拠にしているが、そうした主張をシオニズムという。

### Q どうしてシオニズムは起こったの？

**A** ヨーロッパでは19世紀になるとそれぞれの民族が自分たちの国家を持つとする傾向が強くなる。キリスト教中心のヨーロッパ社会で長い間差別され迫害される存在だったユダヤ教徒であるユダヤ人たちも、その動きに刺激され、19世紀末から国家建設の運動を始めた。エルサレムにある「シオンの丘に帰ろう」と呼びか